

1 ひょっとして…？

認知症は、誰でもかかる可能性のある身近な病気です。「最近何かおかしいな」「もしかして…」と思ったら、そのままにしておかないことが大切です。早めの相談や、専門医の受診が、その後の生活にも大きな影響があります。



早期発見・早期受診が大切です！

やってみよう！

早期発見のために／

自分や家族でできる気づきチェックリスト

もの忘れがひどい

- 同じことを何度も言う・問う・行う。
- 財布・通帳・衣類などを盗まれたと人を疑う。

判断・理解力が衰える

- 5分前に聞いた話を思い出せないことがある。
- 今日が何月何日か分からないことがある。

時間・場所がわからない

- 約束の日時や場所を間違えるようになった。
- 慣れた道でも迷うことがある。

人柄が変わる

- 些細なことで怒りっぽくなった。
- 周りへの気遣いがなくなり頑固になった。

不安感が強い

- 一人になると怖がったり寂しがったりする。
- 外出時、持ち物を何度も確かめる。

意欲がなくなる

- 下着を変えず、身だしなみを構わなくなった。
- 趣味や好きなテレビ番組に興味を示さなくなった。

出典：認知症の人と家族の会「家族がつくった「認知症」の早期発見のめやす」より一部抜粋
http://www.alzheimer.or.jp/?page_id=2196

認知症の始まりによくみられる症状をまとめたもので、医学的診断に代わるものではありません。認知症の診断には、医療機関の受診が必要です。いくつか思い当たることがあれば、早めにかかりつけ医やお住まい地域の地域包括支援センター(52頁)に相談しましょう。

早期受診の重要性

認知症に早く気づくことが大切なわけ



1 治る病気や一時的な症状の場合があります。

脳腫瘍、慢性硬膜下血腫など、外科的な処置で良くなる場合や、甲状腺機能低下症など服薬など内科的な治療で良くなる場合があります。

薬の使用が原因で認知症のような症状が出た場合は、主治医と相談し薬をやめるか調整すれば回復します。何もせず長期間放っておくと、回復できなくなりますので、1日も早く受診することが重要です。

2 進行を遅らせることが可能な場合があります。

認知症を完治させる薬はまだありませんが、進行を遅らせる薬はあり、うまく治療を始めることで、穏やかに過ごせる時間を長くすることができます。

3 今後の生活の準備をすることができます。

本人が病気を理解できる時点で受診すると、認知症を理解し病気と向き合うことができます。病院へ行くことは認知症の診断が目的ではありません。症状が進む前に本人の希望や今後の生活の備えや工夫などを一緒に考える時間がもて、自分らしく生きるためのヒントを見つけることができます。

ご家族の皆さんへ

多くの場合、何かがおかしいと最初に気づくのは本人ですが、認めたくない、これからどうなるのだろう等の不安や悔しい気持ち、周りに迷惑をかけるなど様々な気持ちで過ごされていることを理解しましょう。接し方については、42頁を参考にしてください。医療機関へ相談・受診する際には、家族からの情報がとても大切です。日頃の行動などを一歩下がって観察し、症状や出来事のメモをとっておくことをお勧めします。本人が受診を嫌がる場合、39頁を参考にしてください。地域包括支援センター(52頁)から認知症初期集中支援チーム(47頁)に依頼することもできます。

気になることがあればご相談ください【認知症の相談窓口】

- お住まい地区の地域包括支援センター(52頁)
- 大川三潑医師会【認知症地域支援推進員】(☎87-2611)
- 大川市健康課高齢者支援係(☎85-5524)

